

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 348 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2013.03.22（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 1109 部\*\*\*\*\*

---

□ 目 次 □-----

<巻頭言> TPP は行先不明の片道切符か 小泉浩郎

<緊急投稿> 日本の農業“モノづくり”の“実力”

農業は 10 倍の関連産業の生産活動を支えている 塩谷哲夫

<山崎農業研究所 第 144 回定例（現地）研究会 速報（要旨）>

テーマ：果樹王国ふくしま：産地再生に向けて

2. ワークショップ解題 (3)産地再興：歴史に学ぶ

.....石川秀勇氏 山崎農研

<編集後記> ぶれないことが正しいのか

---

<巻頭言> TPP は行先不明の片道切符か

原子力発電は、自然科学の量子物理学の粋の結晶、「安全神話」が流布され  
原子力マナーが踊った。そしてあの惨事である。

アベノミクスと TPP、よって立つ科学は社会科学、そのなかの近代経済学の  
系譜にある。そこでは「安全神話」に代わり「成長神話」が語られ、市場原理  
による自由な競争が賞賛される。物理学以上に理論が輻輳しあいまいな社会科  
学、この問題山積の路線選択は、原発同様、いやそれ以上に大きな間違いを犯  
しかねない。

3月15日、安倍首相が TPP 交渉に参加すると公式表明した翌 16 日の朝刊は、各  
紙 1 面トップでそのことを報じた。全国 5 紙は、何れも「国家 100 年の計」と肯  
定的に論評、地方紙の多くは「拙速、公約違反」と厳しい。そのよって立つ主  
張が「机上の理論（科学）」と「現場の暮らし（現実）」の違いか。政界、行  
政、経済界まで楽観的観測に包まれている。

極秘スケジュールの夜行バス「TPP 交渉号」は、2006 年に出発、16 回の協議が進められ、終点は年内間近である。乗車希望と手を挙げても、参加各国の同意がなければ停車しない。特に米国は、議会の承認を得るのに少なくとも三ヶ月以上はかかるという。さらに乗車が容認されても、わが国が乗車するかどうかは国会が決める。

「行先不明」しかも引き返せない「片道切符」。乗車したら途中下車は不可能だ。頭を下げて乗せてもらい、意に添わないから途中下車では、間違いなく大怪我をする。国益を犠牲にしながらかり続けることになろう。ここで「科学は万能でない」と気がついて遅い。

少なくとも学問や報道を職業とする者、国のあり方をリードする政治家や行政官は、一般人に代わって実情を究明し、社会の木鐸として真相を伝える義務がある。そして私たちも伝えられた情報を正しく判断し、国の未来を考えて具体的行動に移す責任がある。前回の東京の「五輪」招致、その敗因は都民の支持率が 55%と低かったことといわれる。まだ、間に合う。

小泉浩郎

山崎農業研究所事務局長

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

---

<緊急投稿> 日本の農業“モノづくり”の“実力”  
農業は 10 倍の関連産業の生産活動を支えている

---

日本の政財界には、TPP に参加すべしとして、「GDP のわずか 1.5%しかない一次産業を守るために 98.5%を犠牲にするのか」といった暴論がある。この主張を「なるほど」と思わされてしまう国民もかなりいるのではないかと懸念している。だが、農林水産業のもたらす経済効果は農林漁業の直接生産にとどまるものではない。

東大大学院の鈴木宣弘教授らは「農林水産業がそこで展開されていることによって、食品産業や流通など、いろいろな産業が成り立ち、商店街が成り立ち、コミュニティーが成り立っているのが地域社会の現実である」と述べている（『よくわかる TPP48 のまちがい』、農文協）。

たまたま必要があって『農林水産統計』を見ていたら、このことを鮮やかに語ってくれているデータに出会った。「農業・食料関連産業の経済計算」（平成 22 年度）である。

第一次産業としての農業・林業（特用林産物）・漁業の生産額は 11.11 兆円（農業 9.381, 特用林産物 0.222, 漁業 1.508）であったが、関連産業全体の生産額は、その 10 倍の 94.348 兆円にも上り、実に、全経済活動（GDP）の 10.4% を占めているのである。

関連産業の内訳を見ると、製造業 36.662 兆円（食品工業 33.999, 資材供給産業 2.663）、投資 1.933 兆円、流通業 23.954 兆円、飲食業 20.686 兆円であった。地方の農漁村だけでなく全国レベルで、第一次産業が広い領域の産業を支えていることが良くわかる。

ところが、安倍首相は農業生産を 3 兆円減らしても TPP に参加するというのである。その結果得られる GDP のプラスはわずか 0.66%、3.2 兆円に過ぎない。なんとあきれた“達見”ではないか。この虚構の計算の裏で、実体として、農林漁業産地の地方経済は疲弊し、人々の暮らしは翻弄され、国土は荒廃してしまうのではないかと懸念される。

このデータを見ていて、もう一つ気づかされたのは、富の源泉は、やっぱり実業としての“モノづくり”にあるのだということであった。モノを作るための、そのモノを活用するための歯車がかみ合って、大きな経済活動が生れるわけである。

“なんとかのミクス”とか金融工学とかのバーチャル操作による実体の無い虚構の金稼ぎは、かつての日本経済のバブル崩壊、TPP 仕掛けの張本人 USA のリーマンショックが如実に証明したように、いずれはその正体が暴かれて崩壊してしまうのではないだろうか。

しかし、虚構の仕掛けによって、人々のまじめな営みがダメージを受けるのは紛れも無い現実であることを思うと、浮世（憂世）のまやかしを許せない気持ちになってしまう。

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事、東京農工大学名誉教授

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

テーマ：果樹王国ふくしま：産地再生に向けて

期 日：2013年1月19日（土）

場 所：JA新ふくしま飯坂南支所 会議室

1. 基調報告 ベラルーシ現地視察を踏まえて  
.....今野文治氏 JA新ふくしま農業振興対策室
2. ワークショップ解題＝山崎農研
  - (1)住民参加型復旧・復興の方法.....小泉浩郎氏
  - (2)放射性物質：汚染・除染の考え方.....渡邊博氏
  - (3)産地再興：歴史に学ぶ.....石川秀勇氏
  - (4)風評被害：そのメカニズムと対策.....家常高氏

- 
2. ワークショップ解題 (3)産地再興：歴史に学ぶ  
.....石川秀勇氏 山崎農研

平野地区など、福島市のこの地域は福島盆地のほぼ中央に位置し、ここに日本の果樹生産の歴史そのものを見ることができる。この産地の歴史を振り返り、先人の知恵と行動を学び、次代に引き継ぐ責任がある。福島盆地の気象特性、土壌条件を生かした多様な果樹生産をしている。福島県の果樹栽培面積は、モモが全国2位、ナシ3位、カキ5位、リンゴ6位等と上位にあるが、福島市と伊達郡からなる福島盆地でその半分を占めている。

この地域は養蚕が明治以前から盛んであった。リンゴ、モモ、オウトウなどが栽植され始めたのは明治20年前後の頃である。大正期には当地におけるリンゴ栽培に打ち込んだ篤農家の阿部健次郎氏が知られ、氏は戦後も技術普及に尽力された。

戦中から終戦直後にかけては、食糧事情の悪化からオウトウなど伐採された。が、昭和22年ともなると果樹栽培に時代の脚光が再来し、果樹園面積の同25年から30年にかけての著増など様変わりをし、果樹専門紙の発刊が始められるのどもしている。

農業基本法、果樹農業振興特別措置法の制定をみた昭和36年から同60年頃までの間については、県の果樹振興に関わる施策も活発に行われるとともに、SS利用の共同利用防除組織の普及などが進んだ。

昭和から平成に移った頃の前後10年余の間については、対外経済摩擦への対

応から牛肉・オレンジの自由化決定など、厳しい状況が続いた。これへの対処で、その前から始めていた福島のくだもの<ミスピーチ>による宣伝活動、<フルーツライン>沿いでの観光農園などについて、強化しての取り組みがなされた。

食料・農業・農村基本法の制定された平成 11 年頃からは、産地の持続的発展を期し各品目について高度技術の確立、普及をすべく、その取り組みがなされてきている。そこに原発事故が生じ、当面は除染など放射能汚染対策に意を注がねばならない状況となった。この対策については、活用できる国からの助成事業も明らかにされており、これを克服していかなければならないが、同時に中長期的にみた産地としての協議の必要な課題が、栽培技術、経営、流通・販売、その他についてあるように考えられる。

明治以来の、ときに困難な状況を克服してきたこの産地の歴史を振り返ると、更なる発展に向けた再興が念願される。側面からの支援などできることあれば力にと思う

(文責：石川・安富)

---

<編集後記> ぶれないことが正しいのか

---

昨年末の衆議院選挙以来、テレビの報道番組がまったくつまらなくなった。それはなぜか。

自民政権になってから、民意は吾にありと言わんがごとく（実際は比例区では惨敗した前回選挙よりも票を落としている）、ただただ経済浮揚策にはしり（「浮揚」であるのだからいつかは「下る」のだろう）、原発政策は後退し（福島第一原発はいまだ収束していないのに）、日米同盟の復活を高らかに宣言し（オスプレイはあちこちで訓練飛行をはじめ）...といったように、要は昔に戻ってしまったからだ。

民主党政権だってそうほめられたものではない。だが、官邸前デモであれ野党からの攻撃であれ、それらに対してためらったり、うろたえたりした。そのゆらぎが報道を面白く（などという不謹慎かもしれないが）し、「2030年代までに原発稼働ゼロ」という政府方針なども生み出した。

政治家が「ぶれない」ことを一種の売りにするようになったのはいつ頃からな

のだろう。新しい事実が明らかになるなかで方針が変わるのは「ぶれる」とは言わないはずなのに。

TPP はそのはやい時期から交渉の密室性が問題とされていた。最近分かったのは、日本のような後発参加国（参加できるかどうか先発国の胸先三寸のようだが）がこれまでの協議事項に対して異議を唱えた場合それが受け入れられる可能性はたいへん低いということだ。なんだそれは、と言いたくなる。

事実が明らかになればそれに応じた方針を決める。大人の世界であれば当たり前だ。子どもの世界であれば「間違えることが恥ではなく、間違ったことを正さないことが恥ずかしいんだよ」とも言われるところだ。

「ぶれない」ことで間違った方向に進むのだけは勘弁願いたい。

2013年03月22日

山崎農業研究所会員・田口 均

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売  
『自給再考—グローバル化の次は何か』  
(発売：2008/11 定価：1,575円)

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

---

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考 ―グローバル化の次は何か』  
<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」  
<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryu.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末にURLを。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

-----  
次回 348 号の締め切りは 04 月 01 日、発行は 04 月 04 日の予定です。

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 348 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2013.03.22（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*